

はじめに

この度、令和3年度（2021年度）の業務内容および調査研究の成果を「熊本市環境総合センター年報（第29号）」として取りまとめました。ご高覧いただき、ご指導・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

当センターは、本市の保健衛生行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として様々な行政検査や調査研究を実施しており、環境学習の拠点としての機能も有しております。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は継続しており、人々の健康や生命のみならず、社会生活にも大きく影響を及ぼしています。新型コロナウイルス感染症対策は現在3年目を迎えていますが収束時期は未だ不透明であり、新規感染者の発生が続いている状況にあります。当センターでも、一部の行政検査や環境学習への取り組みについては休止せざるを得ない状況になりましたが、一方で、新型コロナウイルス感染症の検査に関しては、1年間でおよそ14,000件を超える検査に対応しました。

現在も変異株が続々と確認される中、変異株検査の拡充や次世代シーケンサー（NGS）等を活用したゲノム解析等新たな検査技術を修得するなど、病原体検査の持続的实施に努め、監視体制の強化を図ることで感染拡大防止対策に資する取り組みを進めてまいります。また今後も国や他自治体の研究機関との連携強化を図りながら、速やかに対応していく所存です。

今後とも熊本市民が安全・安心に暮らすことができる生活環境を守るため、正確かつ迅速に検査業務を遂行していくとともに、食品の安全性確保や環境汚染に関する検査対応、また新しい生活様式を取り入れた環境学習の実施などを検討してまいりたいと考えておりますので、引き続きのご支援及びご協力を賜りますようお願いいたします。

令和4年（2022年）10月

熊本市環境総合センター所長 近藤 芳樹